

# 2024年度 事業概要

四日市港 霞ヶ浦地区



霞ヶ浦北心頭地区  
W81岸壁床掘工

霞ヶ浦北心頭地区 W81岸壁



国土交通省 中部地方整備局

四日市港湾事務所

## 四日市港湾事務所管轄図

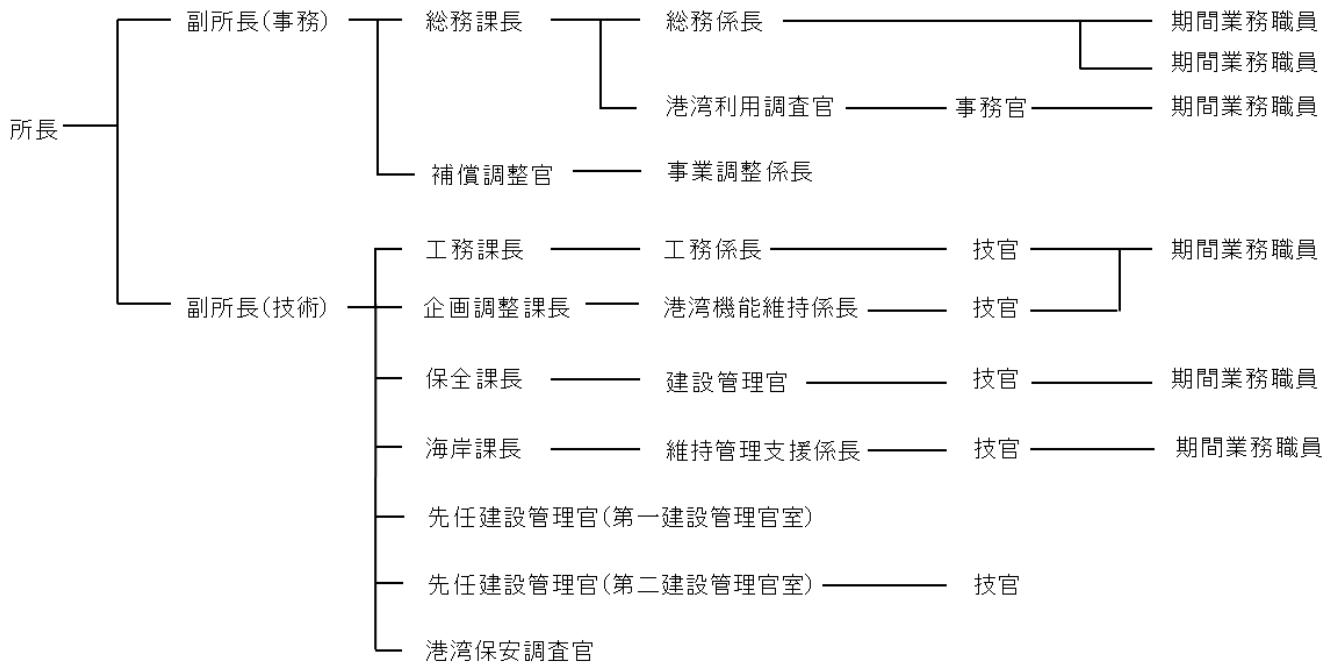


三重県内の港湾（内訳）

◎ 国際拠点港湾	1港（四日市港）
● 重要港湾	2港（津松阪港・尾鷲港）
● 地方港湾	17港
	計20港

## 四日市港湾事務所の組織体制

### 【四日市港湾事務所】



四日市港湾事務所 行(一)25名、期間業務職員6名 = 計31名

# <予算>

## (1) 令和5、6年度予算

(単位:千円、工事費ベース)

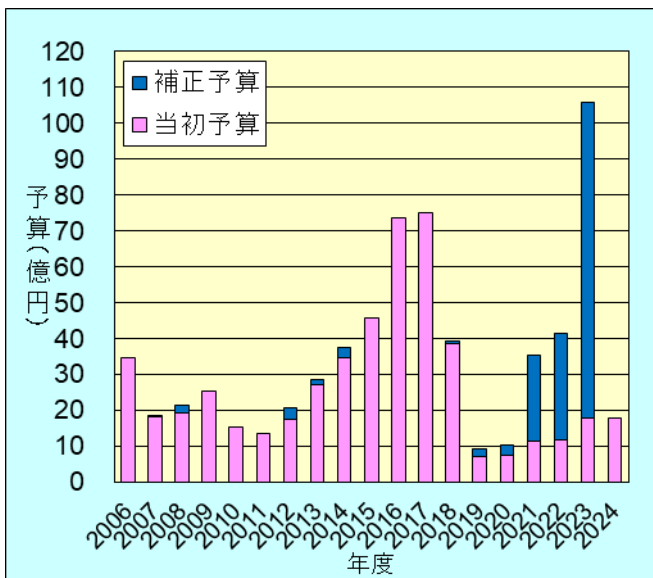
事業内容	費目	令和5年度予算		令和6年度予算	伸び率	
		【当初】	【補正】	【当初】	R6当初/R5当初	(R5補正+R6当初)/(R4補正+R5当初)
港湾事業	港湾改修費	1,786,000	8,812,000	1,792,000	1.00	2.23
	四日市港震ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業	1,686,000	8,812,000	1,542,000	0.91	2.23
	岸壁(-14m)(耐震)	1,446,000	8,400,000	1,482,000	1.02	2.24
	岸壁(-14m)(耐震)5か年加速化対策※	0	12,000	0	-	-
	泊地(-14m)	240,000	400,000	60,000	0.25	1.92
	泊地(-14m)5か年加速化対策※	0	0	0	-	-
	予防保全事業	100,000	0	250,000	2.50	2.50
	岸壁(-12m)(改良)	0	0	0	-	-
	岸壁(-12m)(改良)5か年加速化対策※	0	0	0	-	-
	東防波堤(改良)	100,000	0	250,000	2.50	2.50
	東防波堤(改良)5か年加速化対策※	0	0	0	-	-
貸付国有港湾施設整備事業費	33,000	0	33,000	1.00	1.00	
<b>小計</b>	<b>1,819,000</b>	<b>8,812,000</b>	<b>1,825,000</b>	<b>1.00</b>	<b>2.22</b>	
海岸事業	海岸保全施設整備事業費	252,000	0	-	-	-
	津松阪港海岸直轄海岸保全施設整備事業※	252,000	0	-	-	-
	堤防(改良)	252,000	0	-	-	-
	堤防(改良)5か年加速化対策※	0	0	-	-	-
	四日市港海岸直轄海岸保全施設整備事業	-	-	549,000	-	-
	石原地区護岸(改良)	-	-	274,500	-	-
	石原地区護岸(改良)5か年加速化対策※	-	-	0	-	-
	塩浜地区護岸(改良)	-	-	274,500	-	-
塩浜地区護岸(改良)5か年加速化対策※	-	-	0	-	-	
<b>小計</b>	<b>252,000</b>	<b>0</b>	<b>549,000</b>	<b>2.18</b>	<b>0.86</b>	
<b>合計</b>	<b>2,071,000</b>	<b>8,812,000</b>	<b>2,374,000</b>	<b>1.15</b>	<b>2.06</b>	

※5か年加速化対策とは、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」のことである。

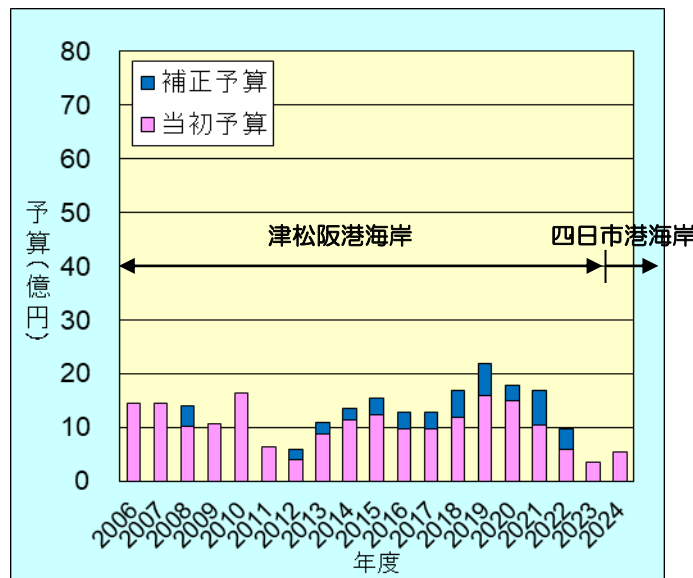
※津松阪港海岸の当初事業費は、最終事業費とする。

## (2) 予算の推移

### 港湾改修費



### 海岸保全施設整備事業費



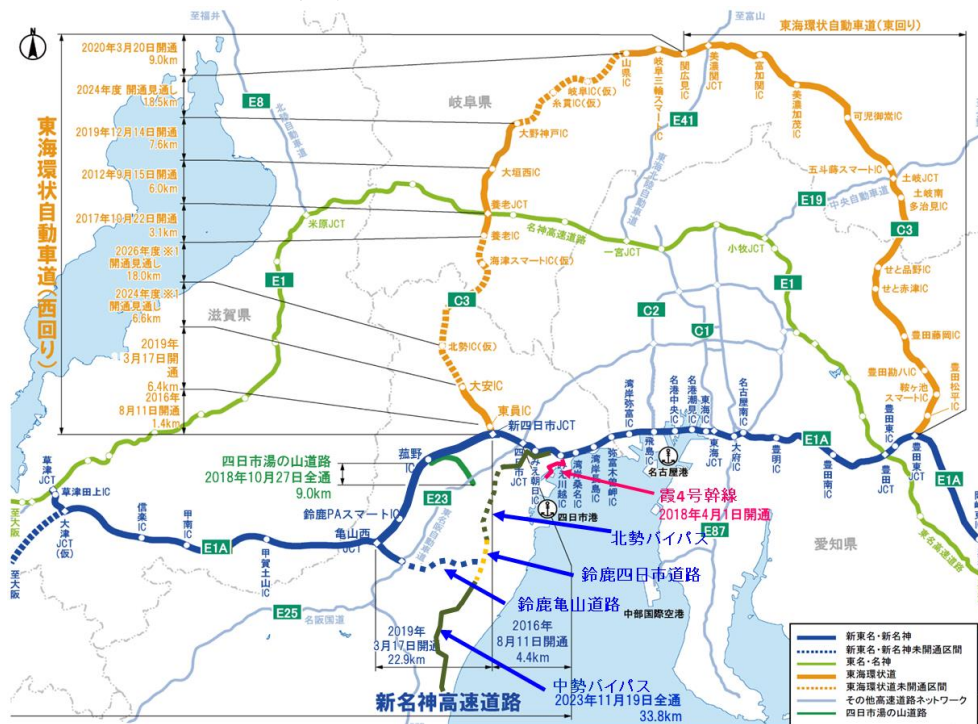


# <四日市港の概要>

## ■四日市港背後圏の道路ネットワーク

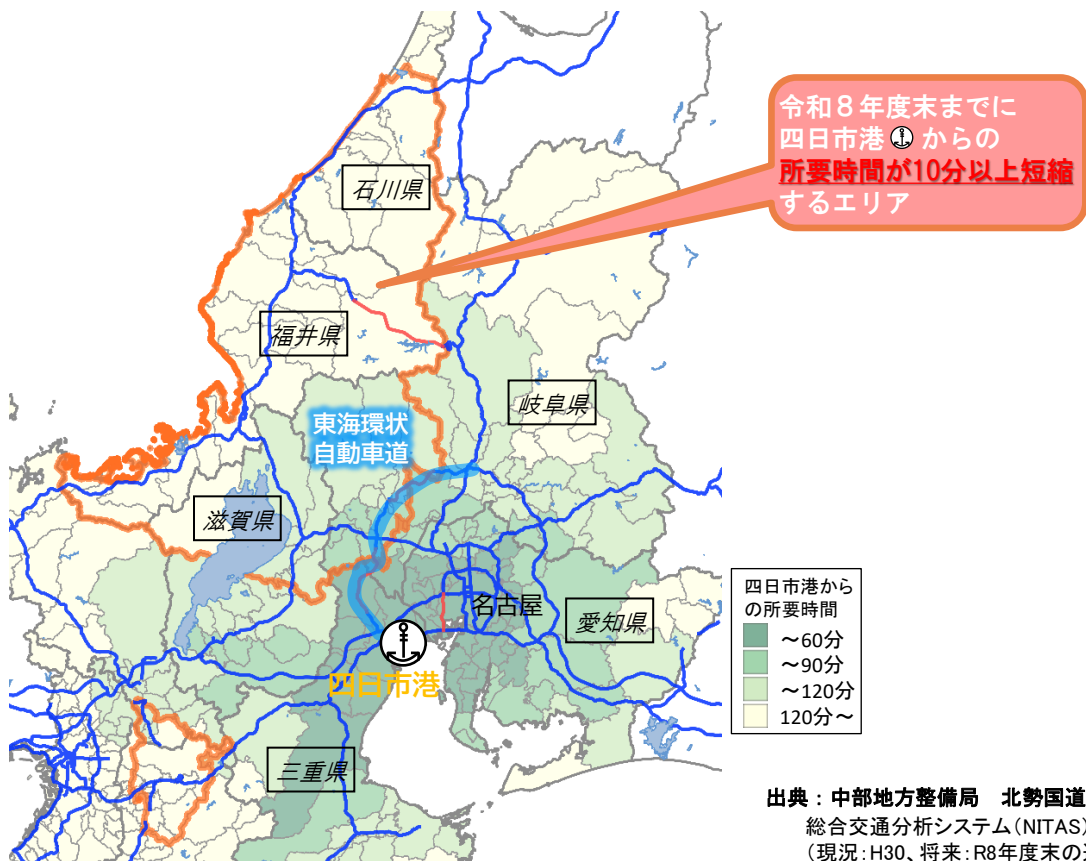
高規格幹線道路の整備が着実に進展しており、2026年度（令和8年度）には東海環状自動車道が全線開通の見通し。

全線開通により、滋賀県、岐阜県など背後圏からの四日市港へのアクセスが向上。



※1 用地取得等が順調な場合

出典：中部地方整備局 北勢国道事務所HP (<http://www.cbr.mlit.go.jp/hokusei/>) に四日市港湾事務所追記  
中部地域背後圏の高規格幹線道路の整備状況



出典：中部地方整備局 北勢国道事務所資料  
総合交通分析システム(NITAS)より作成  
(現況：H30、将来：R8年度末の道路網)

道路ネットワーク進展による四日市港からの所要時間短縮

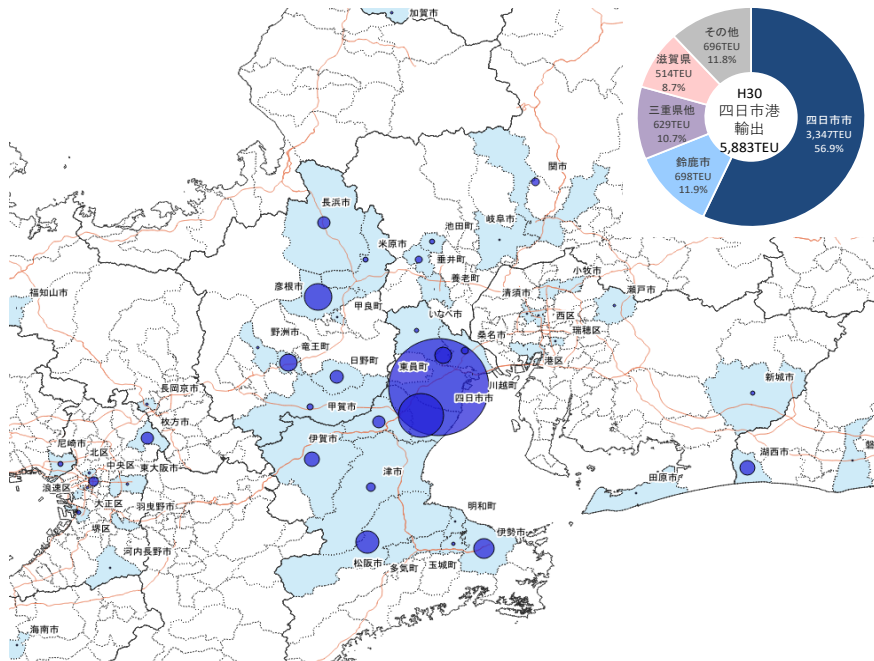
# ■コンテナ貨物の四日市港背後圏流動状況

## 1) 四日市港利用の輸出コンテナの生産地分布

四日市港利用の輸出コンテナの生産地分布をみると、三重県内からの輸出が約8割を占めており、このうち四日市市が3,347TEU/月（2018年11月）と56.9%、次いで鈴鹿市が698TEUと11.9%を占めています。

三重県以外からは滋賀県彦根市や竜王町からの輸出で、四日市港輸出の8.7%を占めています。

【四日市港を利用する輸出コンテナ貨物量の生産地分布(2018年11月)】

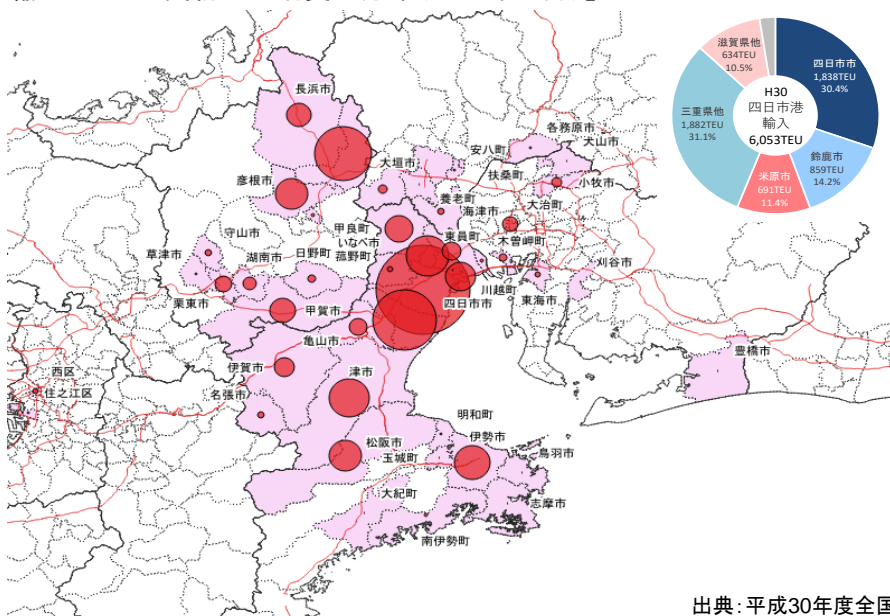


## 2) 四日市港利用の輸入コンテナの消費地分布

四日市港利用の輸入コンテナの消費地分布をみると、三重県内への輸入が約8割を占めており、このうち四日市市が1,838TEU（2018年11月）と30.4%を占めており、次いで鈴鹿市が859TEUと14.2%を占めています。

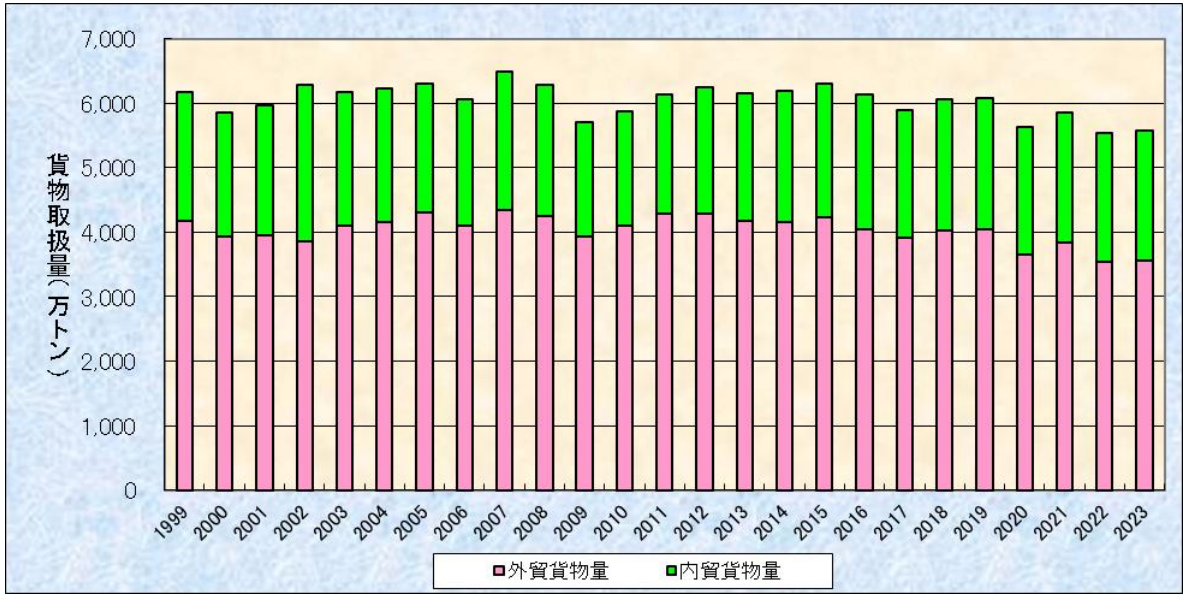
三重県以外では滋賀県への輸入が多く、四日市港利用コンテナの約2割を占めており、米原市への輸入は691TEUと四日市港利用輸入コンテナの11.4%を占めています。

【四日市港を利用する輸入コンテナ貨物量の消費地分布(2018年11月)】



# ■四日市港の取扱貨物量

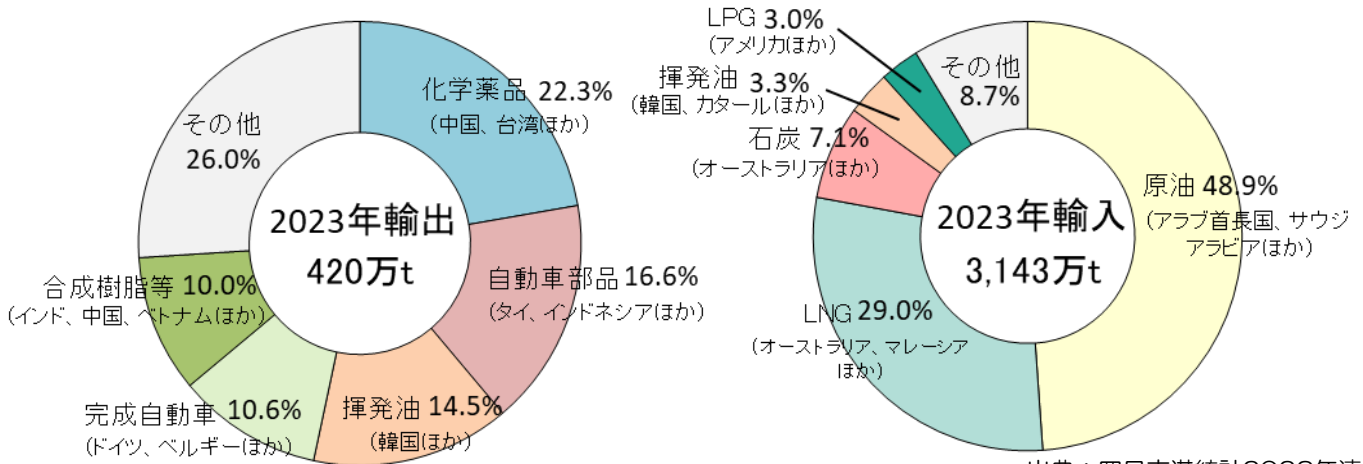
## 1) 海上出入貨物量の推移



2023年（令和5年） 外貨取扱貨物量：3,563万トン → 対前年比1.01  
 内貨取扱貨物量：2,015万トン → 対前年比1.00 ※端数は四捨五入

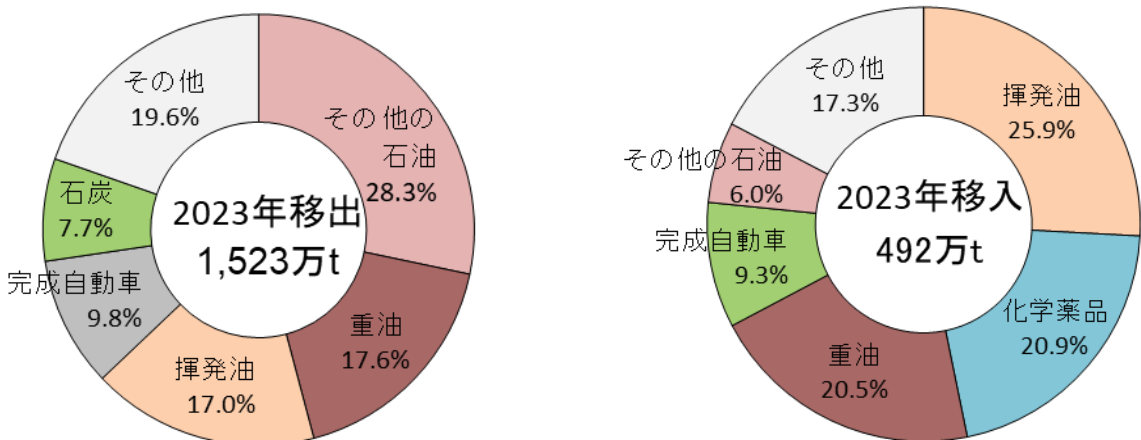
## 2) 外国貿易貨物の品種別内訳 (2023年 (令和5年))

出典：四日市港統計2023年速報



出典：四日市港統計2023年速報

## 3) 国内貿易貨物の品種別内訳 (2023年 (令和5年))

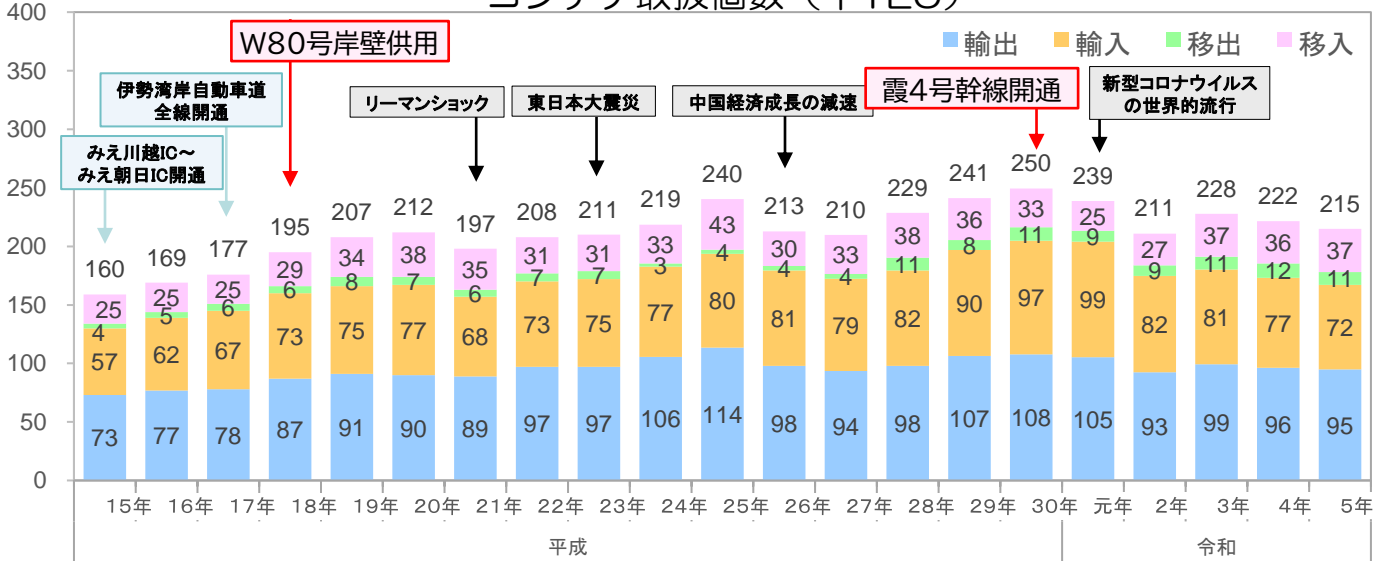


出典：四日市港統計2023年速報



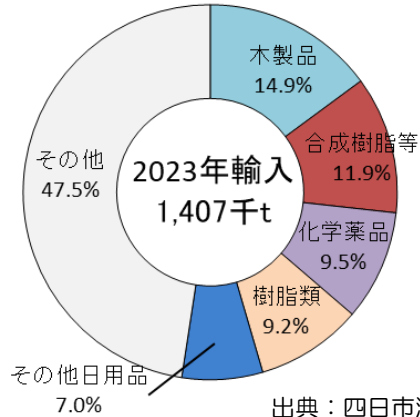
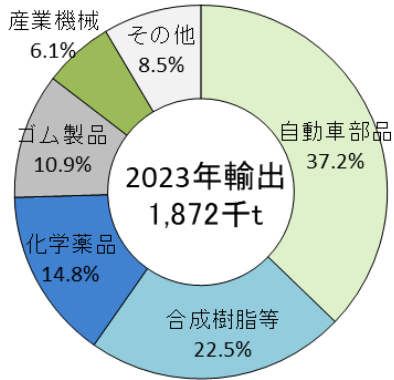
#### 4) コンテナ貨物量の推移

コンテナ取扱個数（千TEU）



出典：四日市港統計2023年速報

#### 5) 外貿コンテナ貨物の品種別内訳（2022年（令和4年））



出典：四日市港統計2023年速報

#### 6) 外航コンテナ定期航路

四日市港の外貿コンテナ定期航路網15サービス（2023年（令和5年）6月14日時点）

区分	航路(目的地)	便数(曜日)	船社名
1	韓国	週1便(木)	Pan Con ※CK Line, Heung-A, KMTC, DONGJIN
		週1便(金)	KMTC ※CK Line, Pan Con
		週1便(木)	Pan Ocean
4	中国(渤海湾)	週1便(水-木)	SITC
5	中国・台湾・香港・ベトナム	週1便(土-日)	Evergreen Line ※SEA
	台湾・香港・シンガポール・マレーシア	週1便(水-木)	Evergreen Line
	中国・台湾・香港・シンガポール・マレーシア・インドネシア	週1便(金-土)	Wan Hai Lines ※Interasia
	台湾・香港・タイ	週1便(土)	Wan Hai Lines
	中国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア	週1便(水)	OOCL ※Interasia, SEA(輸入), COSCO
	韓国・中国・ベトナム	週1便(月-火)	SITC
	ベトナム・タイ	週1便(金)	ONE ※SITC, Wan Hai Lines
	韓国・フィリピン	週1便(日)	ONE ※HMM
	シンガポール・インドネシア	週1便(月)	ONE/Hapag-Lloyd
	韓国・台湾・ベトナム・マレーシア・シンガポール・フィリピン	週1便(水)	MSC
	シンガポール・マレーシア・フィリピン	週1便(水)	CMA CGM

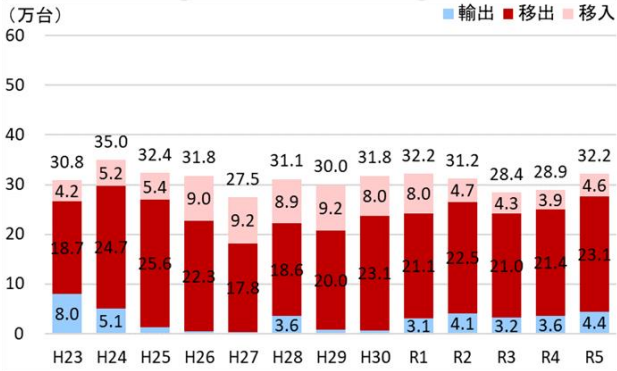


※印はスペースチャーター、スロットチャーター

出典：四日市港管理組合ホームページ「四日市港コンテナ定期航路網」

## 7) 完成自動車の取扱状況

【完成自動車取扱量の推移】



四日市港管理組合へのヒアリングを基に四日市港事務所作成



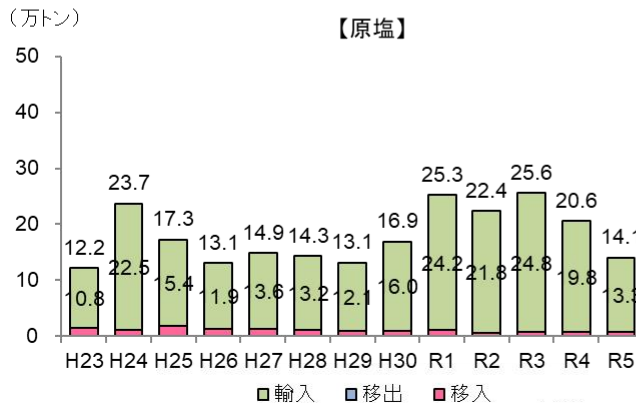
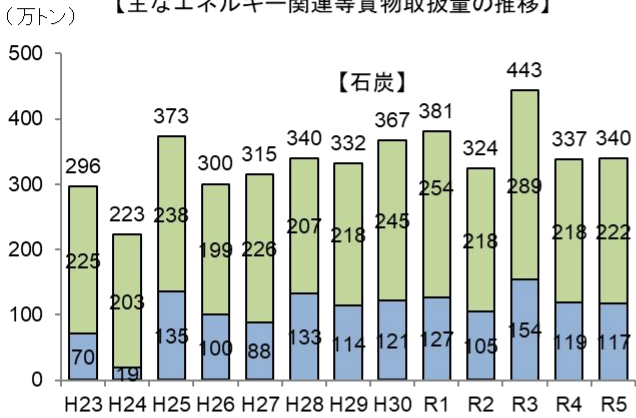
W24, W25岸壁に2隻同時に着岸する自動車輸送船



■ : 現状    ■ : 拡張    ■ : 将来運用

## 8) エネルギー関連等貨物の取扱状況

【主なエネルギー関連等貨物取扱量の推移】



出典：四日市港統計2023年速報



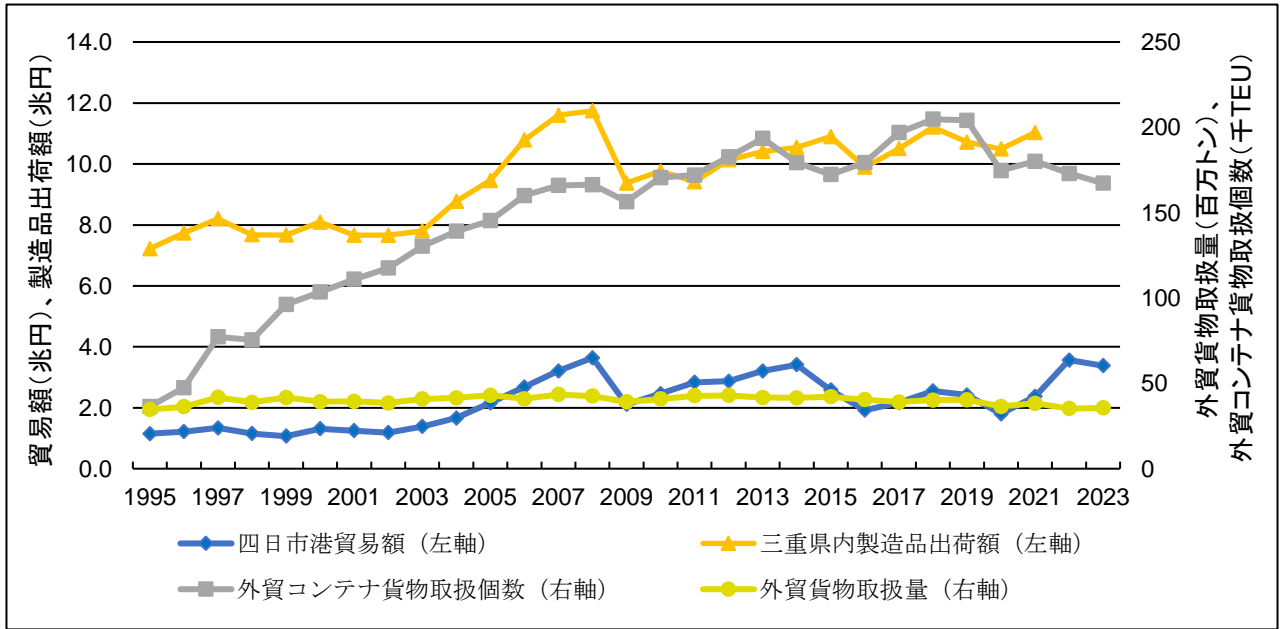
■ : 現状

※W60-62は石炭移用に利用



# <四日市港の経済効果>

四日市港が地域経済にもたらす効果は多岐にわたっています。例えば、港湾が存在することにより、港湾に関わる企業や周辺に立地する企業などに勤める人々が商品やサービスを購入するほか、企業自身が設備投資を行ったり、港湾を通じて海外への輸出や県外への移出を行ったりするなど、さまざまな需要が生み出されています。そうした需要は、それに関わる産業の生産を生み、さらに、その産業の資材やサービスの購入が他産業の新たな生産を呼び起こすなど、効果が他部門へと波及していきます。



出典：貿易統計、工業統計、四日市港統計2023年速報より整理

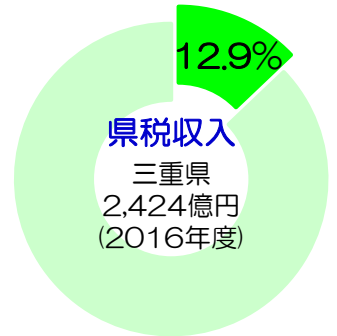
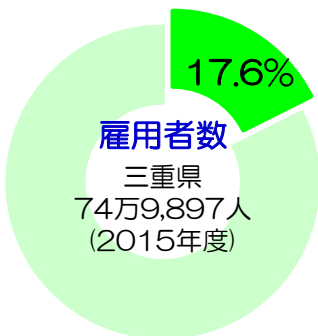
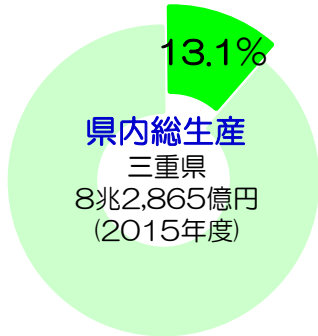
※三重県内製造品出荷額は2021年が最新版

## ■三重県にもたらされた経済効果

1兆821億円

13万2,336人

314億円

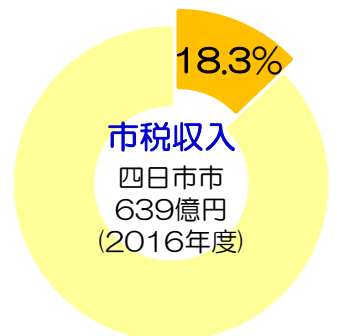
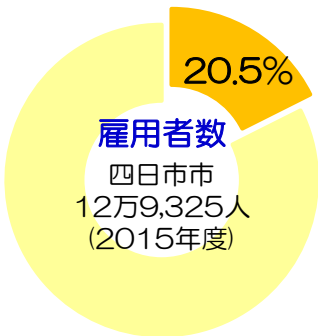
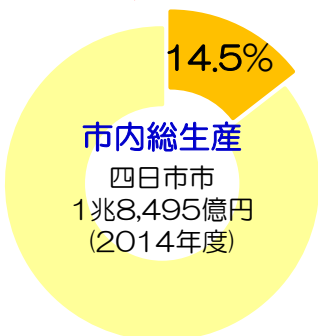


## ■四日市市にもたらされた経済効果

2,674億円

2万6,545人

117億円



出典：四日市港と地域経済（平成29年度四日市港経済効果調査の概要）／四日市港管理組合

# <港湾事業>

## ■ 四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業

### 1. 事業の必要性及び概要

近年、東南アジア航路のコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化の進展により、水深14m岸壁を有する北ふ頭の利用が増加しています。また、背後の自動車企業等において完成自動車の取扱が増加する見込みです。

今後、大型船の着岸可能な岸壁の不足が見込まれることから、これらに対応した港湾機能の強化が必要となっています。

このため、霞ヶ浦地区において、国際物流ターミナルの整備を行います。

- ・整備施設：岸壁（水深14m）（耐震）、泊地（水深14m）、臨港道路、ふ頭用地、荷役機械
- ・事業期間：令和3年度～令和12年度
- ・総事業費：583億円（うち港湾整備事業費370億円）

### 2. 事業箇所

三重県四日市市

### 3. 令和6年度事業予定内容及び現在の実施状況

令和3～5年度には地盤改良や床掘及び地盤の支持力等を確認するために試験杭の打設工事を行いました。

令和6年度は本体杭打設、基礎工、ケーソン製作及び泊地浚渫工事を行います。



【現状】



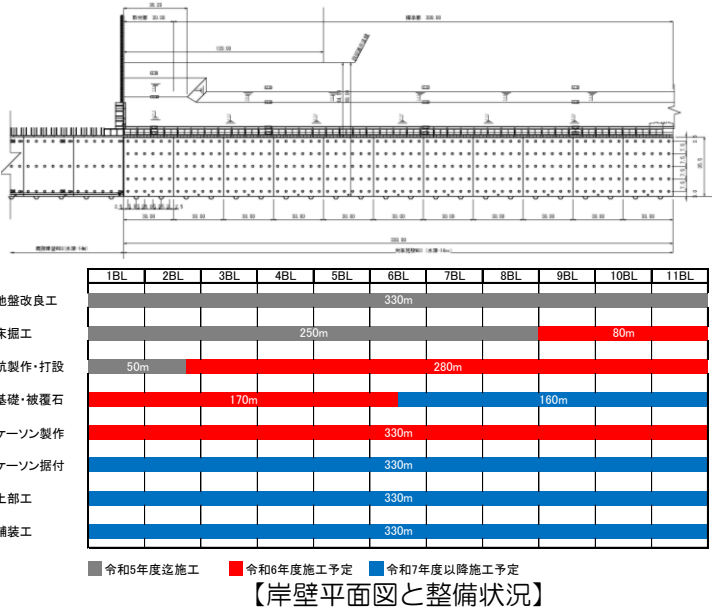
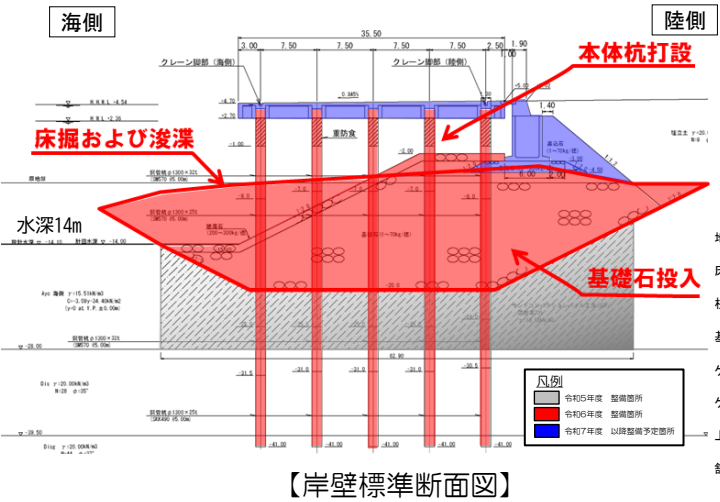
【整備後】

霞ヶ浦北ふ頭へコンテナ機能の集約化





## 4. 岸壁の構造及び整備状況



## 5. 施設整備の様子



【地盤改良(SCP船)】



【本体杭打設(杭打設船)】



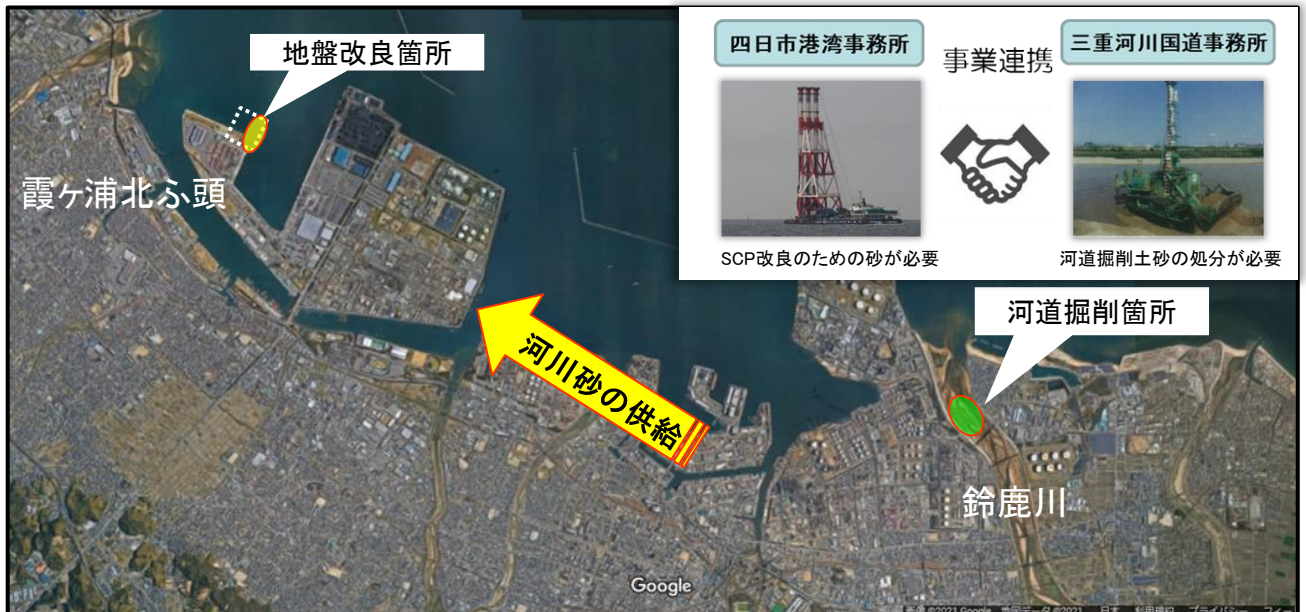
【本体杭打設(R5d打設範囲)】

## 6. コスト削減の取り組み ～河川事業との連携～

港湾事業（四日市港湾事務所）と河川事業（三重河川国道事務所）が連携し、地盤改良に必要な砂材の一部として、近隣の鈴鹿川で発生する河道掘削砂を活用。

令和3年6月25日に文書を取り交わし、受入開始。地盤改良に必要な砂 約21.5万m<sup>3</sup>のうち、約8.5万m<sup>3</sup>を受入。引き続き、ケーソン中詰材についても、流用砂を活用する予定。

※環境へ配慮のため、瀬戸内海の多くの地域で海底砂の規制が進むなど、近年、砂の供給が課題となっている



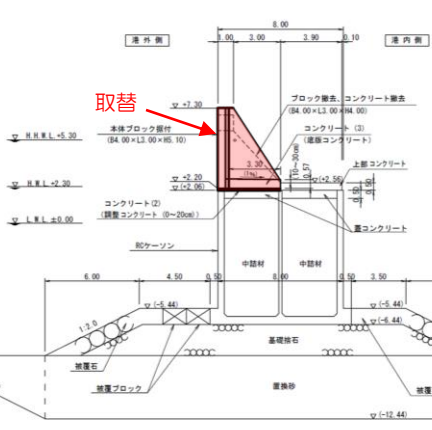




# ■ 予防保全事業（施設の整備状況）

## < 四日市港 東防波堤（S38年度建設） >

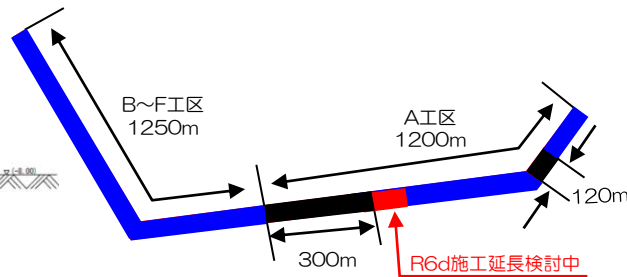
令和6年度はA工区における既設L型ブロックの撤去と新設L型ブロックの製作・据付を実施します。



凡例

- 2023年度（令和5年度）迄 整備箇所
- 2024年度（令和6年度） 整備箇所
- 2025年度（令和7年度）以降 整備予定箇所

A工区 L型ブロック		
製作済	据付済	A工区 据付総延長
501m	420m	1200m



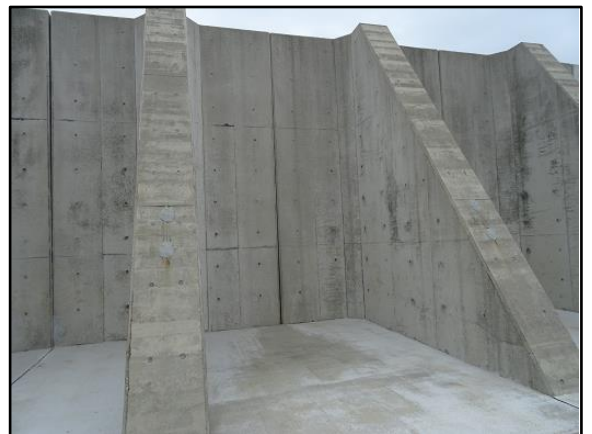
【改良断面図】

【ブロック据付状況】

### ① R6d修繕工事内容（上部工：L型ブロック据付（既設L型ブロック撤去→製作L型ブロック据付））



整備前  
（既設老朽化状況）



整備完了後



# <海岸事業>

## ■直轄海岸保全施設整備事業（津松阪港海岸）

津松阪港海岸は、1953年（昭和28年）に来襲した台風13号と、未曾有の災害をもたらした1959年（昭和34年）の伊勢湾台風により大きな被害を被りました。そして、昭和28年から38年にかけて災害復旧事業として現在の海岸護岸等が整備されました。

その後、約半世紀が経過し海岸護岸等の老朽化が見られ、さらには地盤沈下や海浜侵食および液状化の可能性があることが確認され、高潮対策として抜本的かつ緊急的な改良が必要となりました。このため、1992年度（平成4年度）より高潮対策事業として、香良洲地区・三雲地区・松阪地区・津地区（贄崎）の約11kmについて海岸整備事業を実施しました。また、2011年度（平成23年度）からは、津地区（栗真町屋、阿漕浦・御殿場）の約5.5kmの整備を進めており、2018年度には津地区（栗真）が整備工区に追加され、2023年度（令和5年度）に事業完了しました。



整備スケジュール

（年度）

地区	延長	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
津(栗真)	1,165m												
津(栗真町屋)	2,062m												
津(阿漕浦・御殿場)	3,485m												



## ■完成施設

栗真工区



令和6年2月27日撮影

栗真町屋工区



令和2年3月17日撮影

阿漕浦・御殿場工区



令和6年3月14日撮影



## ■直轄海岸保全施設整備事業（四日市港海岸）

四日市港海岸の石原地区、塩浜地区は、背後に石油化学コンビナートがあり、エネルギー関連や石油化学を中心とした製品の素材・原料等を製造する基幹産業が集積しています。

また、県内で最も人口が多い四日市市の市街地を控え、住宅が密集しているほか、国道1号、23号、JR、近鉄が通る交通の要衝となっています。

四日市港海岸の海岸保全施設は、液状化の概念が考慮される以前の古い設計基準により整備されている。また、施設直下には液状化層が堆積していることが確認されており、地震発生時には海岸保全施設が変位し、防護機能が損なわれる可能性があります。

さらに、四日市市は、南海トラフ地震防災対策推進地域、同津波避難対策特別強化地域に指定されており、四日市港海岸の津波対策は急務となります。

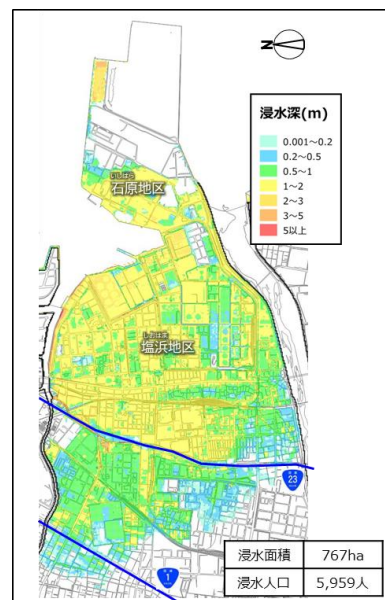
このため、2024年度（令和6年度）より石原地区・塩浜地区の約5kmについて直轄海岸保全施設整備事業を実施していきます。

### 【事業概要】

- ・整備施設：護岸（改良）、胸壁（改良）、樋門（改良）、陸閘（改良）
- ・事業期間：令和6年度～令和17年度
- ・総事業費：250億円



石原地区堤防の決壊  
（伊勢湾台風による被害写真）  
出典：四日市港のあゆみ（昭和62年3月発行）



L1津波による浸水想定図

# <その他>

## ■四日市港におけるカーボンニュートラルポート形成に向けた取り組み

- 令和4年5月22日(日)、四日市港ポートビルで「四日市港カーボンニュートラル推進フォーラム」を開催。(主催:四日市港管理組合)
- 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化に取り組むとともに、石油化学産業等が集積する四日市コンビナート企業と連携し、官民両輪で2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた機運醸成を図ることを目的に開催された。
- また、具体化の場として、令和4年度は『四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会』、『四日市港カーボンニュートラルポート協議会』を設置し検討を進めた。
- 令和5年度は「四日市港港湾脱炭素化推進協議会」を設置し、令和6年3月には『四日市港港湾脱炭素化推進計画』を策定。また、「四日市カーボンニュートラル化推進委員会」も設置し、7部会の活動を推進している。

### 四日市港港湾脱炭素化推進計画

#### 港湾脱炭素化促進事業及びその実施主体

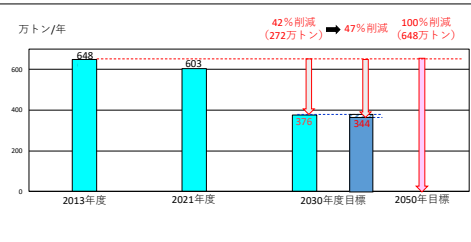
NO	区分	施設名称(事業名)	実施主体
<b>船舶CO2排出量の削減及びCO2削減に資する事業</b>			
1	1	喫煙艇及び遊覧艇等への脱炭素化に資する燃料の導入	四日市港管理組合
2	2	船舶のLED化	四日市港管理組合
3	3	EV車の導入	四日市港管理組合
4	4	小型風力・太陽光発電設備の導入	四日市港管理組合
5	5	照明のLED化	四日市港管理組合
6	6	太陽光発電設備の整備	四日市港管理組合
7	7	ガントリークレーン照明のLED化	名産品四日市港管理組合(株)
8	8	ハイブリッド駆動への改造(エンジン交換)	日本トランスシティ(株)
9	9	ハイブリッド駆動の導入	日本トランスシティ(株)
10	10	ガソリン車一斉置換の代替	中部海運(株)
11	11	照明のLED化	中部海運(株)
12	12	緊急警備用ボイラーローダーの導入	伊勢海運(株)
13	13	インターホンを「電力消費抑制」のガントリークレーンの整備	四日市港管理組合
14	14	EV or FVフォークリフトの導入	中部海運(株)
15	15	EV or FVフォークリフト・HV車の導入	三菱(株)
16	16	照明のLED化	中部コーポレーション(株)
17	17	CO2フリー電気の導入	四日市港管理組合
18	18	EVフォークリフトの導入	四日市港管理組合
19	19	電気モーター駆動の導入	伊勢海運(株)
20	20	照明のLED化	中部海運(株)
21	21	太陽光発電設備の整備	中部海運(株)
22	22	陸上電力供給設備の導入	四日市港管理組合
23	23	バイオ燃料の導入	四日市港管理組合
24	24	ES[脱炭素]の入港料削減制度の導入	四日市港管理組合
25	25	LNG燃料船・LNG燃料供給船への入港料削減制度の導入	四日市港管理組合
26	26	LNGLPG燃料の導入	四日市港管理組合
27	27	アンモニア燃料の導入	日本郵船(株)
28	28	石油系燃料船でのバイオ燃料利用	四日市港管理組合
29	29	燃料内導のLED化	四日市港管理組合
30	30	設備更新等による省エネ化	実務ガス(株)四日市工場
31	31	フルカーボン(炭素)の達成	四日市港管理組合
32	32	ゼロカーボン(炭素)の達成	四日市港管理組合
33	33	その他	四日市港管理組合
<b>脱炭素化推進地区指定事業</b>			
34	34	脱炭素化推進地区指定	四日市港管理組合
35	35	LNG燃料船へのLNG燃料供給、LNGバンカリング	四日市港管理組合
36	36	脱炭素化推進地区指定	四日市港管理組合
37	37	バイオエタノールの導入	四日市港管理組合
38	38	メタンエタノールによる合成メタンの導入・供給	実務ガス(株)
39	39	炭素回収の維持・向上	(株)E R A
40	40	SAFの供給	昭和四日市石油(株)
41	41	新たな事業を展開する用地の確保	四日市港管理組合



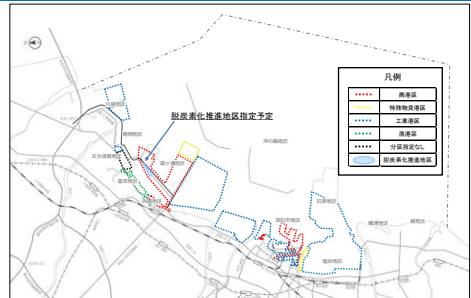
項目	CO2 排出量の削減効果			合計
	(a) ターミナル内	(b) 出入り 船舶・埠頭	(c) ターミナル外	
①: CO2排出量 (2013年度)	約0.54万トン	約7.3万トン	約640万トン	約648万トン
②: CO2排出量 (2021年度) <sup>※1</sup>	約0.57万トン <sup>※2</sup>	約8.1万トン <sup>※3</sup>	約595万トン	約603万トン
③: 事業実施による削減量 <sup>※4</sup>	約0.17万トン	約0.03万トン	0万トン	約0.2万トン
④: 2013年度からのCO2削減量	約-0.03万トン	約-0.8万トン	約45万トン	約44.2万トン
⑤: 削減率 (④/①)	-6%	-11%	7%	7%

※1 清潔・低炭素の燃料に資する事業: 以下のCO2削減効果は含まれない。  
 ※2 2021年度までに実施済の港湾脱炭素化推進事業によるCO2削減効果を含む。  
 ※3 各々のCO2排出量(船舶)の削減効果(削減率)の算出に、船舶の稼働率の低下を考慮している。  
 ※4 CO2削減効果の算出は、船舶燃料量・入港料削減に依存しており、2021年以降にそれぞれ増加している。  
 ※5 今後、脱炭素化の取組の具体化に応じて、港湾脱炭素化推進計画を見直し、港湾脱炭素化促進事業を追加していくことによって、目標に向けて削減率を高めていく。

#### 港湾脱炭素化推進計画の目標



#### 脱炭素化推進地区制度の活用等を見据えた土地利用の方向性



### 四日市港カーボンニュートラル推進フォーラム

日時: 令和4年5月22日(日) 13:00~15:20  
 場所: 四日市港ポートビル2F大会議室  
 主催: 四日市港管理組合

内容:  
 (基調講演)  
 カーボンニュートラルの実現に向けた港湾と海運の取組  
 > 流通科学大学名誉教授 森 隆行

(報告)  
 ①カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けて  
 > 国土交通省港湾局 産業港湾課長 西尾 保之  
 ②四日市港カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けて  
 > 四日市港管理組合 経営企画部理事 林 寛之

(背後圏企業の発表)  
 カーボンニュートラル実現に向けた取組  
 > 三菱ケミカル(株)  
 > 日本トランスシティ(株)  
 > 昭和四日市石油(株)

### 四日市カーボンニュートラル化推進委員会

四日市カーボンニュートラル化推進委員会  
 令和5年 7月19日 第一回委員会  
 令和6年 1月16日 第二回委員会

- ◇設立経緯
- ・令和4年3月に設置した、四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会(以下「CN検討委員会」という。)において、2030年・2050年の四日市コンビナートが目指す将来像について検討が行われ、令和5年3月に2030年・2050年の四日市コンビナートが目指す将来像であるランドデザインや実現に向けたロードマップ等を公表。
  - ・CN検討委員会の検討結果を踏まえて、カーボンニュートラル社会に貢献するコンビナートを実現するためには、企業間の連携によるプロジェクト創出や企業と行政が連携した実証実験などの新たな取組みを推進する必要があることから、新たに「四日市コンビナートカーボンニュートラル化推進委員会」を設置。

活動内容	2023							2024				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
CN化推進委員会				第1回 7/19				勉強会 11/17		第2回 1/16		
生産プロセス部会									第4回 12/15			
副産ガス利用検討部会									第3回 12/15			
ケミカルリサイクル連携部会				第1回 6/30								
水素・アンモニア拠点化検討部会		5/24 合同 準備会		第1回 6/30			第2回 10/6		第3回 12/21			
共同インフラ設備連携検討部会							第1回 10/6					
広域・他家種連携部会									第1回 12/21			
参考: 中部圏水素・アンモニア社会実証推進会議 における普及活動WG							WS 10/22		WS 12/10		セミナー 2/19	



フォーラムの様子



# ■四日市みなとまちづくりの取り組み

令和3年11月、四日市地区みなとまちの将来像を「モノ・ヒトがともに集う出会い・憩い・賑わいのみなとまち よっかいち庭浦（仮称）」と定めた「四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕」を策定。

「市民に寄り添い、訪れる人をもてなす「みなとまち『新たな四日市庭浦\*1』」を目指して、6つのプロジェクトと2つの継続的な取組を掲げ、四日市みなとまちづくり協議会\*2を中心にイベント等を開催し、みなとまちづくりの取組を進めている。

※1 四日市庭浦… 1473年（文明5年）の外宮庁宣案に記載された地名。この時代から、既に「四」のつく日に定期市が開かれており、「四日市」という地名の由来とされている。

※2 四日市みなとまちづくり協議会… 構成団体：四日市港利用促進協議会、四日市市、四日市港管理組合、四日市港湾事務所、四日市商工会議所



千歳運河賑わい想像プロジェクト イメージ



第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクト イメージ

**BAURA**  
Pick up EVENT  
JAZZ FESTIVAL  
BAURA JAZZ FESTIVAL  
2023  
Yokkaichi  
BAURA  
ミーティング  
2023.10.22 日  
10:00~16:00  
四日市港四日市地区  
駐車あり

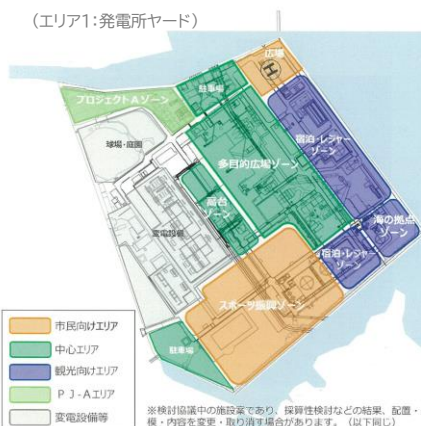
**会場MAP**  
1 納屋運河でSUP体験  
2 千歳運河でカヌー体験  
3 納屋運河「ゆりかめ」体験船  
4 プログラムカフェ  
5 納屋運河でSUP体験  
6 千歳運河でカヌー体験  
7 納屋運河「ゆりかめ」体験船  
8 プログラムカフェ  
9 水素エネルギー遊ぼう  
10 Bauraで遊ぼう  
11 地元通橋 即売会  
12 四日市港 遊覧さんぽ  
13 納屋運河で遊ぼう  
14 納屋運河で遊ぼう  
15 納屋運河で遊ぼう





## ■尾鷲港における取り組み

尾鷲港は中部電力尾鷲三田火力発電所の廃止等を受け、平成29年1月1日に不開港になった。中部電力(株)、尾鷲市、尾鷲商工会議所の三者を中心に構成される「おわせSEAモデル協議会」にて尾鷲三田火力発電所跡地再生による地方創生の取組を進めている。



出典: 令和3年3月24日「おわせSEAモデル構想の状況について」

令和4年1月には、尾鷲商工会議所を中心に「尾鷲港振興会」を設立し、ポートセールスや企業誘致の取組を進めている。

令和4年3月26日には、「みなとまちづくりフォーラムin尾鷲※」を開催し、尾鷲港を利用したクルーズ振興や物流の取組について情報共有がされた。

〔※主催者：尾鷲港振興会、尾鷲市、尾鷲商工会議所、おわせSEAモデル協議会、三重県、都市環境ゼミナール、中部地方整備局〕



「みなとまちづくりフォーラムin尾鷲」(令和4年3月26日)

# <四日市港、津松阪港の歩み>

	四日市港	津松阪港
明治	3年(1870) 汽船による四日市～東京の貨客定期航路を開始	
	6年(1873) 稲葉三右衛門氏私財を投じ築港(旧港)に着手(明治17年完成)	
	23年(1890)	川喜多四郎兵衛が発起人となり浚渫開始
	32年(1899) 開港場に指定	
	35年(1902) 四日市港に綿花の輸入開始	
大正	41年(1908)	南防波堤220m、北防波堤229m等を建設し港としての形態を既成
	11年(1922) ニューヨーク航路に続いて南米航路の第一船入港	内務省指定港湾となる(津港)
	12年(1923)	興営事業として大口改修事業を起し、大口修築事務所を設置 松阪に合併し、松阪港と改称
	13年(1924) 豪州定期航路開始	
	14年(1925) 第2号埋立地完成 千歳町と命名	
	3年(1928) 第三号埋立地(石原町)完成	
	5年(1930)	内務省指定港湾となる(松阪港)
	19年(1944)	東南海地震
	27年(1952) 特定重要港湾に指定	地方港湾に指定
	28年(1953)	台風13号来襲
昭和	31年(1956) 塩浜地区に第一石油コンビナート形成	
	34年(1959)	伊勢湾台風来襲
	36年(1961) 港湾計画新規策定	
	38年(1963) 午起地区に第二石油コンビナート形成	東南海地震海岸保全区域に指定
	39年(1964) 石原沖シーバース(海上荷役施設)完成	
	41年(1966) 四日市港管理組合設立	
	42年(1967) 霞ヶ浦地先埋立(第三石油コンビナート)起工	津伊倉津地先に臨海工業用地の造成 公共港湾施設を整備
	43年(1968) 大磯沖シーバース完成 豪州シドニー港との姉妹港提携式挙行	
	44年(1969) 豪州定期航路コンテナ第一船入港(コンテナ輸送開始)	
	45年(1970) 霞ヶ浦地区に第三石油コンビナート形成 港湾計画改訂	
	46年(1971) 四日市港コンテナ埠頭(株)発足 霞ヶ浦地区専用コンテナ埠頭着工(昭和48年5月供用開始)	地方港湾、津港と松阪港併せて津松阪港が設立・重要港湾に指定 大口岸壁の建設に着手
	48年(1973) オーストラリアハビリアオン霞ヶ浦緑地公園に完成	港湾計画新規策定
	52年(1977) ニュージーランド航路コンテナ船初入港	大口岸壁完成
	55年(1980) 四日市港外航定期船寄港促進期成同盟会発足	
	56年(1981)	港湾計画改訂
	57年(1982) 港湾計画改訂	
	59年(1984) 四日市港築港100周年、開港85周年記念式典挙行	
	61年(1986)	北岸壁(旧港湾岸壁)の改修に着手
	元(1989) 四日市港開港90周年記念式典挙行	
	4年(1992)	海岸法第6条の規定による、津松阪海岸直轄事業化
	5年(1993) 港湾計画改訂	ふるさと海岸整備モデル事業に指定 香良洲地区護岸着工
	6年(1994)	松阪地区(西果部)護岸着工
	7年(1995)	港湾計画改訂 三雲地区(天白)護岸着工
	8年(1996) 四日市港国際物流センター完成	
	10年(1998) 港湾計画改訂	松阪地区(大口)護岸着工
11年(1999) 四日市港開港100周年記念式典挙行		
12年(2000) 第二、第三航路泊地(-1.4m)完成		
13年(2001)	松阪地区(狛師)護岸着工 松阪地区(松ヶ崎)護岸着工	
14年(2002)	津地区(鈴崎)への整備延長追加	
15年(2003)	津地区(鈴崎)護岸着工 三雲地区(鶴)護岸着工	
平成	16年(2004) 名古屋港とともにスーパー中核港湾に指定	
	17年(2005)	中部国際空港アクセス基地「津なぎさまち」完成
	18年(2006) 霞ヶ浦北ふ頭-1.4m岸壁供用開始 霞ヶ浦北ふ頭コンテナターミナル(第1バース)オープン	
	19年(2007) 北米定期航路コンテナ第一船入港	松阪地区(西果部)完成
	20年(2008)	津なぎさまちがみなとオアシスに登録
	21年(2009)	松阪地区(松ヶ崎、狛師、大口)完成
	22年(2010)	香良洲地区完成
	23年(2011) 港湾計画改訂 国際拠点港湾に指定	津地区(鈴崎)完成
	24年(2012)	津地区(栗真町屋)着工 三雲地区完成
	26年(2014) 四日市港埠頭株式会社が特別港湾運営会社に指定	津地区(阿漕浦・御殿場)着工
令和	27年(2015) 四日市港埠頭株式会社によるW27コンテナミルの運営開始	
	28年(2016) 霞ヶ浦埠頭流通センター着工(民都機構から特定民間都市開発事業(共同型都市再構築業務・港湾)の支援措置を受ける) 霞ヶ浦北ふ頭コンテナターミナルにガントリークレーン1基増設	
	29年(2017) 名古屋四日市国際港湾株式会社設立	
	30年(2018) 臨港道路(霞4号幹線)の開通	津地区(栗真)の直轄事業化(整備延長追加)
	元(2019) 四日市港開港120周年記念式典挙行	
	3年(2021) 四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル(W81)整備事業の新規事業化	津地区(栗真町屋)完成
	4年(2022) 四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル(W81)整備事業着工	
	5年(2023)	津松阪海岸直轄海岸保全施設整備事業完了
	6年(2024)	四日市港海岸直轄海岸保全施設整備事業の新規事業化



国土交通省中部地方整備局  
**四日市港湾事務所**

<http://WWW.yokkaichi.pa.cbr.mlit.go.jp>

四日市市新正3-7-27


TEL : 059-351-1357

**交通のご案内**

- 近鉄新正駅下車 徒歩10分

『海とみなとの相談窓口』フリーダイヤル

大いに 良くなれ みなと

 0120-497-370

“海やみなと”の疑問・質問・相談をお待ちしています。